

# 平成29年度 入学者選抜要項

この要項は、平成29年度宮城教育大学入学者選抜に関する基本的な事項を掲載したものです。

出願手続、実施日程等の具体的な事項については、次のとおり発表しますので必ずご覧ください。

- 推薦入試（大学入試センター試験を課さない）及び推薦入試（東日本大震災被災者特別選抜・大学入試センター試験を課さない）は9月下旬に「平成29年度推薦入試学生募集要項」により発表
- 一般入試は10月下旬に「平成29年度一般入試学生募集要項」により発表
- 私費外国人留学生入試は10月下旬に「平成29年度私費外国人留学生入試学生募集要項」により発表

平成28年7月

国立大学法人  
宮城教育大学

# 目 次

宮城教育大学入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
1. 募集人員	2
2. 出願資格	3
3. 一般入試の出願上の留意事項	3
4. 入試方法等	3
(1) 入試の種類と実施方法	3
(2) 一般入試の教科・科目及び配点	3
(3) 一般入試における面接及び実技検査の概要	3
(4) 推薦入試（大学入試センター試験を課さない）	3
[附表1～4]	
入学者選抜方法等	
（一般入試、専門高校・総合学科卒業生入試、アドミッション・オフィス入試）	4
（特別入試）	6
推薦入試（大学入試センター試験を課さない）	7
推薦入試（東日本大震災被災者特別選抜・大学入試センター試験を課さない）	8
入学者選抜の実施教科・科目等について	9
[別表1～3] 実技検査の概要	13
5. 私費外国人留学生入試	16
6. 入学者選抜試験の情報開示	17
7. 学生募集要項の配付時期	17
8. その他	17
○学生募集要項等の請求方法	18
○宮城教育大学オープンキャンパス	19
○照 会 先	19
○入学試験に関するインターネットによる情報提供	19
○宮城教育大学までのアクセス	20

# 宮城教育大学入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

宮城教育大学は教員養成大学です。将来、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校等において優れた資質・能力をもった教員として活躍できるよう、教育に強い関心を持ち、確かな基礎学力とたゆまぬ学習意欲、そして自ら教員として、人間としての成長を目指す使命感・向上心を有する学生を受け入れます。

## 1. 初等教育教員養成課程

- 1-1 初等教育教員には、全教科に対応しうる学力とともに、幅広い年齢層にわたる、子どもたちの多様な発達段階に応じた適切な指導力が必要です。
- 1-2 入学する学生には、高等学校において、全般的な教科・科目の基礎学力を十分に習得することが望まれます。
- 1-3 また、子どもたちを取り巻く環境も変化し、学校現場ではさまざまな問題が生じています。初等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持つ学生を求めています。

## 2. 中等教育教員養成課程

- 2-1 中等教育教員には、特定の教科に関する専門的な学力とともに、子どもから大人へと変容し始める生徒に、適切に対応する指導力が必要です。
- 2-2 入学する学生には、高等学校において、志望する専攻に対応する教科・科目の十分な学力に加え、関連する幅広い分野の基礎学力を習得することが望まれます。
- 2-3 また、生徒を取り巻く環境も変化し、学校現場ではさまざまな問題が生じています。中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持つ学生を求めています。

## 3. 特別支援教育教員養成課程

- 3-1 特別支援教育教員には、担当する校種・教科に対応しうる十分な学力とともに、障害のある児童・生徒と向き合っ、その可能性を引きだし、一人一人の異なるニーズに的確に応えることのできる指導力が必要です。
- 3-2 入学する学生には、特別支援教育教員免許状の基礎免許として初等教育教員免許状を取得する場合には、全般的な教科・科目の十分な学力を、中等教育教員免許状を取得する場合には、志望する教科・科目の十分な学力を、高等学校において習得することが望まれます。
- 3-3 また、インクルージョン（困難を抱える人々の存在を当然のこととした社会の構成）をめぐる世界的な流れの中で、学校現場でも対応すべきさまざまな課題が見出されています。特別支援教育に強い関心と意欲があり、その教育に対する使命感を持ち続けることのできる学生を求めています。

# 1. 募集人員

学部	課程	系・専攻・コース	選考区分	入学定員	募集人員					
					一般入試				推薦入試	推薦入試 (東日本大震災被災者特別選抜)
					前期日程		後期日程			
教育学部	初等教育教員養成課程	発達・教育系	—	188	28	(5)	12	(2)	35	若干名
						(5)		(2)		
						(9)		(4)		
						(9)		(4)		
		言語・社会系	—		28	(8)	13	(4)		
						(13)		(6)		
						(7)		(3)		
		理数・生活系	—		35	(12)	16	(5)		
						(12)		(5)		
						(6)		(4)		
						(5)		(2)		
		芸術・体育系	—		12	(4)	9	(3)		
	(4)			(3)						
	(4)			(3)						
	小 計					103	50	35	若干名	
中等教育教員養成課程	国語教育専攻	—	107	7	3	—	—			
	社会科教育専攻	—		7	3					
	数学教育専攻	—		14	6					
	理科教育専攻	—		14	6					
	音楽教育専攻	—		8	—					
	美術教育専攻	—		8	—					
	保健体育専攻	—		8	—					
	技術教育専攻	—		8	—					
	家庭科教育専攻	—		5	—					
	英語教育専攻	—		7	3					
小 計					86	21	—	—		
特別支援教育教員養成課程	視覚障害教育コース	I型	50	20	(5)	—	10	若干名		
	聴覚・言語障害教育コース				(5)				(—)	
	発達障害教育コース				(6)				(—)	
	健康・運動障害教育コース				(4)				(—)	
	視覚障害教育コース	II型		20	(5)	—			(—)	
	聴覚・言語障害教育コース				(5)				(—)	
	発達障害教育コース				(6)				(—)	
	健康・運動障害教育コース				(4)				(—)	
小 計					40	—	10	若干名		
合 計				345	229	71	45	若干名		

- (備考) ①一般入試における( )内数字はコース配属数(予定)である。  
 ②初等教育教員養成課程は、系ごとに募集する。  
 ③中等教育教員養成課程は、専攻ごとに募集する。  
 ④特別支援教育教員養成課程は、「I型」及び「II型」に分けて募集する。なお、「I型」とは文科系教科・科目による選考を、「II型」とは理科系教科・科目による選考を示す。

## 2. 出願資格

### 【一般入試】

入学を志願できる者は、次のいずれかに該当し、かつ、平成29年度大学入試センター試験の本学指定教科・科目（9～12ページのとおり）を受験した者とする。

- (1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む）もしくは中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
- (3) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む）で18歳に達したもの
- (4) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成29年3月31日までにこれに該当する見込みの者

※ 上記出願資格（4）該当者のうち、同規則第150条第7号（「大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、18歳に達したもの」）により出願する者は、事前に個別の入学資格審査を受けることとする。

入学資格審査を受けようとする者は、提出書類等について通知するので、下記の申請期限に間に合うよう早めに本学入試課入試係（照会先は19ページを参照）まで連絡すること。

申請期限	1回目：平成28年9月9日（金）まで
	2回目：平成29年1月13日（金）まで（他大学から入学資格認定を受け大学入試センター試験に出願し受験した者が、宮城教育大学の入学者選抜試験に出願しようとする場合）

### 【推薦入試（大学入試センター試験を課さない）】

7ページの出願要件に定めるとおりとする。

東日本大震災被災者特別選抜については、8ページの出願要件に定めるとおりとする。

## 3. 一般入試の出願上の留意事項

- (1) 初等教育教員養成課程については志願する系にあるコースの中から、発達・教育系及び理数・生活系については第1志望から第4志望まで、言語・社会系については第3志望までのコースを選択すること。  
ただし、芸術・体育系は第1志望のコースのみ選択すること。  
なお、芸術・体育系以外の系において、志望しないコースがあった場合は、そのコースへの出願意志はないものとみなす。
- (2) 特別支援教育教員養成課程については第1志望から第4志望までのコースを選択すること。  
なお、志望しないコースがあった場合は、そのコースへの出願意志はないものとみなす。
- (3) 初等教育教員養成課程（各系）及び特別支援教育教員養成課程（Ⅰ型、Ⅱ型）のコースごとの所属の決定は、入学試験の成績と志望順位を考慮して、合格発表時に行う。

## 4. 入試方法等

### (1) 入試の種類と実施方法

- ① 入試は、一般入試（大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等）と推薦入試の2種類で行う。なお「2段階選抜」は実施しない。
- ② 本学が実施する「前期日程」出願者は、同じく本学が実施する「後期日程」にも出願できる。
- ③ 大学入試センター試験については、平成29年度の成績のみを利用する。

### (2) 一般入試の教科・科目及び配点

一般入試における試験の実施教科・科目及び配点は、9～12ページのとおりとする。

なお、系、専攻及び選考区分（Ⅰ型、Ⅱ型）ごとに本学が定める個別学力検査等の教科・科目等を1つでも受験しなかった場合、以後の受験を認めない。また、合格者判定の対象としない。

### (3) 一般入試における面接及び実技検査の概要

面接は、以下のとおりとする。

- ① 面接は、個人面接とする。
- ② 面接は、平成29年3月12日（日）に行う（3月13日（月）に及ぶ場合がある）。

実技検査の概要については、13～15ページのとおりとする。

### (4) 推薦入試（大学入試センター試験を課さない）

出身学校長からの推薦に基づいて、総合判定により合格者を決定する。

大学入試センター試験の受験は、出願の要件としない。なお、募集人員、出願要件、入試方法等は、7ページのとおりとする。

また、東日本大震災被災者特別選抜の募集人員、出願要件、入試方法等は8ページのとおりとする。

入学者選抜方法等（一般入試、専門高校・総合学科卒業生入試、アドミッション・オフィス入試）

学部・課程・系・ コース・専攻名		個別学力検査等								専門高校・総合学科 卒業生入試					アドミ ッション・ オフィ ス入 試	個別学力 検査等の 実施日程	備 考  (欠員の 補充の 方法等)		
		実技検査等					2段階選抜			個別学 力検査									
		個別 学力 検査を 課する	実技検 査を課 する	面接 を行う	小論文 を課す る	外国語 におけ るリス ニング を課す る	主として、調 査書の内容と 大学入試セン ター試験の成 績により第1 段階選抜を行 う、その合格 者について更 に必要な検査 等を行う	第1段階の 選抜による 合格者数	定員に 対する 倍率	その他	個別学 力検査 を課す る	実技検査等						募 集 人 員	
												実技検 査を課 する	面接 を行う	小論文 を課す る					外国語 におけ るリス ニング を課す る
教 育 日 程 部	初等教育教員養成課程 発達・教育系 幼児教育コース 子ども文化コース 教育学コース 教育心理学コース 言語・社会系 国語コース 社会コース 英語コミュニケーションコース 理数・生活系 数学コース 理科コース 情報・ものづくりコース 家庭科コース 中等教育教員養成課程 国語教育専攻 社会科教育専攻 数学教育専攻 理科教育専攻 技術教育専攻 家庭科教育専攻 英語教育専攻 特別支援教育教員養成課程 視覚障害教育コース（I型） 視覚障害教育コース（II型） 聴覚・言語障害教育コース（I型） 聴覚・言語障害教育コース（II型） 発達障害教育コース（I型） 発達障害教育コース（II型） 健康・運動障害教育コース（I型） 健康・運動障害教育コース（II型）	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	2月25日	欠員が生じた場合は、追加合格又は欠員補充第2次募集を行う	
	初等教育教員養成課程 芸術・体育系 音楽コース 美術コース 体育・健康コース 中等教育教員養成課程 音楽教育専攻 美術教育専攻 保健体育専攻	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	学力検査 2月25日 実技検査 2月25日 26日	

附表1

学部・課程・系・ コース・専攻名		個別学力検査等							専門高校・総合学科 卒業生入試					アドミッ ション・ オフィス 入 試	個別学力 検査等の 実施日程	備 考  (欠員の 補充の 方法等)			
		実技検査等					2段階選抜		個別学 力検査 を課す る	実技検査等							募 集 人 員		
		個別 学力 検査を 課する	実技検 査を課 する	面接 を行う	小論文 を課す る	外国語 における リスニン グを課す る	主として、調 査書の内容と 大学入試セン ター試験の成 績により第1 段階選抜を行 い、その合格 者について更 に必要検査 等を行う	第1段階の 選抜による 合格者数		定員に 対する 倍率	その他	実技検 査を課 する	面接 を行う					小論文 を課す る	外国語 における リスニン グを課す る
教 育 日 程 部	初等教育教員養成課程 発達・教育系 幼児教育コース 子ども文化コース 教育学コース 教育心理学コース 言語・社会系 国語コース 社会コース 英語コミュニケーションコース 理数・生活系 数学コース 理科コース 情報・ものづくりコース 家庭科コース 中等教育教員養成課程 国語教育専攻 社会科教育専攻 数学教育専攻 理科教育専攻 英語教育専攻	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	3月12日 (3月13日 に及ぶ場 合がある)	欠員が生じ た場合は、 追加合格又 は欠員補充 第2次募集 を行う	
	初等教育教員養成課程 芸術・体育系 音楽コース 美術コース 体育・健康コース	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	3月12日		



## 入学者選抜方法等（特別入試）

附表2

学部・課程名	推 薦 入 試									帰国子女、社会人等のための特別入試			備 考	
	入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する													推薦入 試募集 人 員
	個別学力 検査を免 除し、大 学入試セ ンター試 験を課す る	個別学力 検査及び 大学入試 センター 試験を免 除する	実 技 検 査 等						その他					
			実技検 査を課 する	面 接 を行う	小論文 を課す る	外国語 における リスニン グを課す る								
教 育 学 部	初等教育 教員養成課程	×	○	×	○	×	×	○	35名	×	×	×		
	特別支援教育 教員養成課程	×	○	×	○	×	×	○	10名	×	×	×		

### 推薦入試（東日本大震災被災者特別選抜）

教 育 学 部	初等教育 教員養成課程	×	○	×	○	×	×	○	若干名	
	特別支援教育 教員養成課程	×	○	×	○	×	×	○	若干名	



## 推薦入試（大学入試センター試験を課さない）

附表3

実施学部・課程名	教育学部 初等教育教員養成課程 特別支援教育教員養成課程
募 集 人 員	初等教育教員養成課程      35名 特別支援教育教員養成課程      10名 計                                      45名
出 願 要 件	<p>(1) 出願資格 出願する者は、次のいずれかに該当し、学校長から推薦のあった者とする。</p> <p>①高等学校（特別支援学校の高等部を含む）もしくは中等教育学校を平成29年3月に卒業見込みの者</p> <p>②文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成29年3月に修了見込みの者</p> <p>なお、海外留学者、単位制高校出身者及び在外教育施設修了者等については、卒業（修了）が平成29年3月より前であっても平成28年4月以降に卒業（修了）した場合は、出願を認めることがある。</p> <p>(2) 推薦要件 上記の出願資格に該当し、次のすべての推薦要件をみたすこと。</p> <p>①学習成績概評がA段階（全体の評定平均値4.3以上）であること。</p> <p>②本学入学後、意欲的に研鑽に努め得る者であること。</p> <p>③合格した場合は、本学への入学が確約できる者であること。</p>
入 試 方 法 等	出願書類（推薦書、調査書及び推薦入試レポート）の内容、課程別課題、集団面接（一定の課題又は条件を設定して実施する面接を含む）及び個人面接の結果を総合して、合格者を決定する。
出 願 期 間	平成28年11月1日（火）～11月7日（月）
入 試 期 日	平成28年11月19日（土）～11月20日（日）
合 格 発 表 日	平成28年11月24日（木）
入 学 手 続 期 間	平成28年12月15日（木）～12月16日（金）
そ の 他	推薦は1校につき初等教育教員養成課程、特別支援教育教員養成課程とも各1名、計2名までとする。

## 推薦入試（東日本大震災被災者特別選抜・大学入試センター試験を課さない）

実施学部・課程名	教育学部 初等教育教員養成課程 特別支援教育教員養成課程
募 集 人 員	初等教育教員養成課程          若干名 特別支援教育教員養成課程      若干名
出 願 要 件	<p>(1) 出願資格</p> <p>出願する者は、次のことに該当し、学校長から推薦のあった者とする。</p> <p>①東日本大震災（福島第一原子力発電所事故を含む）により「深刻な被害」を被った者で、以下のア・イいずれかの要件をみたすもの</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 高等学校（特別支援学校の高等部を含む）もしくは中等教育学校を平成 29 年 3 月に卒業見込みの者</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 29 年 3 月に修了見込みの者</p> <p>なお、海外留学者、単位制高校出身者及び在外教育施設修了者等については、卒業（修了）が平成 29 年 3 月より前であっても平成 28 年 4 月以降に卒業（修了）した場合は、出願を認めることがある。</p> <p>「深刻な被害」とは、「保護者または兄弟姉妹の喪失」、「保護者の失職等」、「自宅の喪失または全半壊」、「避難命令等による中長期の帰宅困難」又は「これらに類する被害」を指す。これらの被害を基準として、審査する。</p> <p>②現在の居住地は問わない。</p> <p>(2) 推薦要件</p> <p>上記の出願資格に該当し、次のすべての推薦要件をみたすこと。</p> <p>①高等学校等での全体の成績評定平均値が 4.0 以上であること。</p> <p>②被災地の教育復興を担う意志があること。</p> <p>③今回の深刻な震災の経験を、将来の教育職に活かせること。</p> <p>④教員になるための確かな基礎学力と学習意欲を有していること。</p> <p>⑤本学入学後、意欲的に研鑽に努め得る者であること。</p> <p>⑥合格した場合は、本学への入学が確約できる者であること。</p>
入 試 方 法 等	出願書類（推薦書、調査書及び推薦入試レポート）の内容、論述試験及び個人面接の結果を総合して、合格者を決定する。
出 願 期 間	平成 28 年 11 月 1 日（火）～ 11 月 7 日（月）
入 試 期 日	平成 28 年 11 月 19 日（土）
合 格 発 表 日	平成 28 年 11 月 24 日（木）
入 学 手 続 期 間	平成 28 年 12 月 15 日（木）～ 12 月 16 日（金）
そ の 他	1 校からの推薦の人数に上限は定めない。

# 入学者選抜の実施教科・科目等について

附表 4

学部・学科等名及び入学定員等〔平成28年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等				その他入試の方法等			
		教科	科目名等	科目名等	試験の区分	国語	地理歴史・公民	数学	理科		外国語	面接	実技
初等教育系 40人 前期28 後期12 その他若干	前期 2月25日	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1又は2〔注〕	英語総合 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ 英語表現Ⅰ	センター試験 個別学力検査等	200 200	100 200	200 200	200 100	200 100	200 200		900 400	推薦 外国人
	後期 3月12日	数外 ①の①、②のいずれかを選択〔注〕 ①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から2科目 ②物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目と物理・化学・生物・地学から1科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目 英、独、仏、中、韓から1科目 〔数Ⅰ・数A〕と〔数Ⅱ・数B、簿、情報から〕の計2科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	その他 面接	センター試験 個別学力検査等	300 200	100 200	200 200	200 100	300 200	300 200		1100 300	追加合格 次員補充
言語・社会学系 41人 前期28 後期13 その他若干	前期 2月25日	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から2科目	英語総合 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ 英語表現Ⅰ	センター試験 個別学力検査等	200 200	200 200	200 200	100 100	200 200	200 200		900 400	推薦 外国人
	後期 3月12日	数外 ①の①、②のいずれかを選択〔注〕 ①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目 英、独、仏、中、韓から1科目 〔数Ⅰ・数A〕と〔数Ⅱ・数B、簿、情報から〕の計2科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	その他 面接	センター試験 個別学力検査等	300 200	100 200	200 200	200 100	300 200	300 200		1300 1100	追加合格 次員補充
理数・生活系 51人 前期35 後期16 その他若干	前期 2月25日	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目	英語総合 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ 英語表現Ⅰ	センター試験 個別学力検査等	200 200	200 200	200 200	100 100	200 200	200 200		900 400	推薦 外国人
	後期 3月12日	数外 ①の①、②のいずれかを選択〔注〕 ①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目 英、独、仏、中、韓から1科目 〔数Ⅰ・数A〕と〔数Ⅱ・数B、簿、情報から〕の計2科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	その他 面接	センター試験 個別学力検査等	300 200	100 200	200 200	200 100	300 200	300 200		1300 1100	追加合格 次員補充
芸術・体育系 21人 前期12 後期9 その他若干	前期 2月25日 26日	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1又は2〔注〕	英語総合 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ 英語表現Ⅰ	センター試験 個別学力検査等	200 200	100 200	200 200	200 100	200 100	200 200	200 200	900 400	推薦 外国人
	後期 3月12日	数外 ①の①、②のいずれかを選択〔注〕 ①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目 英、独、仏、中、韓から1科目 〔数Ⅰ・数A〕と〔数Ⅱ・数B、簿、情報から〕の計2科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	その他 面接	センター試験 個別学力検査等	300 200	100 200	200 200	200 100	200 100	200 200	200 200	1000 300	追加合格 次員補充

【学力検査等の区分・日程】補  
後期日程の個別学力検査等では、面接を置いている系においては、試験日が3月13日に及び場合がある。  
【大学入試センター試験の利用教科・科目名】補  
地理歴史・公民から2科目を選択する場合、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」から2科目を選択することはできない。また、「倫理、政治・経済」と、「倫理、政治・経済」と、「倫理、政治・経済」の両方を選択した者及び高等学校の高等課程の修了（乳児）者に限る。  
〔注1〕初等教育系・公民から2科目を選択する場合、①又は②のいずれかを選択する。  
〔注2〕「教育B」の出題範囲は「数Ⅰ」「ベクトル」とする。  
〔注3〕選抜教科は、出題範囲に「数Ⅰ」を併記していること。  
【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】補  
大学入試センター試験における英語の配点にはリスニングの成績を含む。英語の配点は、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計得点を200点満点に換算して利用する。  
□ 後期日程の発達・教育系、言語・社会系では英語及び外国語の点数を1.5倍に換算する。  
・ 後期日程の理数・生活系では英語及び数学2科目の点数を1.5倍に換算する。  
・ 後期日程の芸術・体育系では英語の点数を1.5倍に換算する。

たまた、①の①、②のいずれかを選択〔注〕  
①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目と同一の基礎を付さない科目を選択できる（物理基礎と物理、化学・生物・地学から1科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目）  
②物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目  
英、独、仏、中、韓から1科目  
〔数Ⅰ・数A〕と〔数Ⅱ・数B、簿、情報から〕の計2科目  
〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕

たまた、①の①、②のいずれかを選択〔注〕  
①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目  
英、独、仏、中、韓から1科目  
〔数Ⅰ・数A〕と〔数Ⅱ・数B、簿、情報から〕の計2科目  
〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕

たまた、①の①、②のいずれかを選択〔注〕  
①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目  
英、独、仏、中、韓から1科目  
〔数Ⅰ・数A〕と〔数Ⅱ・数B、簿、情報から〕の計2科目  
〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕

たまた、①の①、②のいずれかを選択〔注〕  
①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目  
英、独、仏、中、韓から1科目  
〔数Ⅰ・数A〕と〔数Ⅱ・数B、簿、情報から〕の計2科目  
〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕

学部・学定等 及び入試 （平成25年度 志願倍率）	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等 科目名等	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等		その他の 入試 方法等						
		教科	科目名等		試験の区分	国語		地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	実技
中等教育 345人 前期 229人 後期 71人 その他 45人 (3.1)	前期 2月25日	国語 地理歴史・公民 数学 理科 外国	世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から2科目 [数I・数A]と[数II・数B、簿、情報から1]の計2科目 物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目 英、独、仏、中、韓から1科目 (5教科7～8科目又は6教科7～8科目)	国語総合 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション英語表現Ⅰ	センター試験	200	200	200	100	200		900	外国人 追加合格 欠員補充
	後期 3月12日				個別学力検査等	300			200	200	100	300	
	後期 3月12日			面接	400	200	200	200	300			1200	
	後期 3月12日			面接	400	200	200	200	300			1500	
107人 前期 86人 後期 21人 その他 若干	前期 2月25日	国語 地理歴史・公民 数学 理科 外国	世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から2科目 [数I・数A]と[数II・数B、簿、情報から1]の計2科目 物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・生物・地学から1科目 英、独、仏、中、韓から1科目 (5教科7～8科目又は6教科7～8科目)	国語総合 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション英語表現Ⅰ	センター試験	200	200	200	100	200		900	外国人 追加合格 欠員補充
	後期 3月12日				個別学力検査等	300			200	200	100	300	
	後期 3月12日			面接	300	400	200	200	500			1500	
	後期 3月12日			面接	300	400	200	200	300			1200	
	後期 3月12日			面接	300	400	200	200	300			1500	
20人 前期 14人 後期 6人 その他 若干	前期 2月25日	国語 地理歴史・公民 数学 理科 外国	世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目 [数I・数A]と[数II・数B、簿、情報から1]の計2科目 ①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目と物理・化学・生物・地学から1科目、あるいは②物理・化学・生物・地学から2科目 なお、①の場合、基礎を付した科目と同一の基礎を付さない科目を選択できない（物理基礎と物理、化学基礎と化学、生物基礎と生物、地学基礎と地学の組み合わせは選択できない） 英、独、仏、中、韓から1科目 (5教科7～8科目)	国語総合 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・ 数学A・数学B（注1）	センター試験	200	100	200	200	200		900	外国人 追加合格 欠員補充
	後期 3月12日				個別学力検査等	200			400	200	200	300	
	後期 3月12日			面接	400	100	600	200	200			1500	
	後期 3月12日			面接	300	100	400	200	200			1200	
	後期 3月12日			面接	300	100	400	200	200			1500	
20人 前期 14人 後期 6人 その他 若干	前期 2月25日	国語 地理歴史・公民 数学 理科 外国	世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目 [数I・数A]と[数II・数B、簿、情報から1]の計2科目 ①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目と物理・化学・生物・地学から1科目、あるいは②物理・化学・生物・地学から2科目 なお、①の場合、基礎を付した科目と同一の基礎を付さない科目を選択できない（物理基礎と物理、化学基礎と化学、生物基礎と生物、地学基礎と地学の組み合わせは選択できない） 英、独、仏、中、韓から1科目 (5教科7～8科目)	国語総合 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・ 数学A・数学B（注1）	センター試験	200	100	200	400	200		1100	外国人 追加合格 欠員補充
	後期 3月12日				個別学力検査等	200			200	200	400	400	
	後期 3月12日			面接	400	100	400	200	200			1500	
	後期 3月12日			面接	300	100	200	400	200			1200	
	後期 3月12日			面接	300	100	200	400	200			1500	

【学力検査等の区分・日程】欄  
後期日程の個別学力検査等、面接を課している専攻においては、試験日が3月13日に及ぶ場合がある。

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄  
地理歴史・公民から2科目選択可能な場合は、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」から2科目選択することはできない。また、「倫理・政治・経済」と、「倫理・政治・経済」と、「倫理・経済」を合わせて2科目選択すること（同一名称科目の選択）もできない。  
【筆記・会計】「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校もしくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込）者に限る。

①地理歴史・公民において、1科目を選択受検を指定している専攻に出願した者で、指定の科目数を超えて受検した場合の成績の利用は次のとおりとする。  
②理科において、基礎を付した科目から2科目又は基礎を付さない科目を選択受検を指定している専攻に出願した者で、指定の科目数を超えて受検した場合の成績の利用は次のとおりとする。  
・基礎を付した2科目及び基礎を付さない1科目を受検した場合は、基礎を付さない1科目の成績と基礎を付さない1科目の成績のうち、いずれか高得点の成績を用いる。  
【個別学力検査等】欄  
（注1）「数学B」の出題範囲は「数列」「ベクトル」とする。  
【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄  
大学入試センター試験における英語の配点にはリスニングの成績を2倍に換算した点数である。  
□で明記されている点数は、下記のとおりに換算した点数である。  
・前期日程の理科教育専攻では理科2科目（又は3科目）の点数を2倍に換算する。  
・後期日程の国語教育専攻では国語の点数を2倍、外国語の点数を1.5倍に換算する。  
・後期日程の社会科学教育専攻では国語の点数を1.5倍、地理歴史・公民の点数を2倍に換算する。  
・後期日程の社会科学教育専攻では国語の点数を1.5倍、数学2科目の点数を2倍に換算する。  
・後期日程の理科教育専攻では国語の点数を1.5倍、理科2科目（又は3科目）の点数を2倍に換算する。





学部・学科等名及び入学定員等 〔平成25年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等 科目名等	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等		その他の入試方法等						
		教科	科目名等		試験の区分	国語		地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	実技
中等教育専攻 10人 前期7 後期3 その他若干	前期 2月25日	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から2科目 〔数I・数A〕と〔数II・数B、簿、情報から1〕の計2科目 物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・英、独、仏、中、韓から1科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から2科目 〔数I・数A〕と〔数II・数B、簿、情報から1〕の計2科目 物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・英、独、仏、中、韓から1科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	国語総合 英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ	センター試験 200	200	200	100	200	200	200	900	外国人 追加合格 次員補充
	後期 3月12日	その他 若干	その他 若干	面接	センター試験 300	200	200	100	400	300	300	1200	
特別支援教育専攻 20人 前期20 後期20 その他若干 50人 前期40 後期10	前期 2月25日	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目 〔数I・数A〕と〔数II・数B、簿、情報から1〕の計2科目 物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・英、独、仏、中、韓から1科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目 〔数I・数A〕と〔数II・数B、簿、情報から1〕の計2科目 物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・英、独、仏、中、韓から1科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	国語総合 英語表現Ⅰ	センター試験 200	200	200	100	200	200	900	推薦 外国人	
	後期 2月25日	その他 若干	その他 若干	面接	センター試験 400	200	200	100	400	300	300	1300	追加合格 次員補充
前期 40 後期10	前期 2月25日	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目 〔数I・数A〕と〔数II・数B、簿、情報から1〕の計2科目 物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・英、独、仏、中、韓から1科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	国語 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目 〔数I・数A〕と〔数II・数B、簿、情報から1〕の計2科目 物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは物理・化学・英、独、仏、中、韓から1科目 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	国語総合 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・ 数学B〔注1〕	センター試験 200	100	200	200	200	200	900	推薦 外国人	
	後期 2月25日	その他 若干	その他 若干	面接	センター試験 400	100	400	200	200	200	1300	追加合格 次員補充	

【学力検査等の区分・日程】欄

【後期日程の個別学力検査等、面接を課している専攻においては、試験日が3月13日に及ぶ場合がある。

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

地理歴史・公民から2科目を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の修了者（同一名称科目の選択）もできない。  
地理歴史・公民から2科目を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の修了者（見込）者に限る。

①物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の基礎を付した科目から2科目、あるいは②物理・化学・生物・地学から2科目、あるいは③物理・化学・生物・地学から1科目と同一の基礎を付さない科目から1科目を選択受験を指定している専攻・型に出願した者で、指定の科目数を超えて受験した場合の成績は次のとおりとする。

②理科において、基礎を付した科目から2科目又は基礎を付さない科目から1科目を選択受験を指定している専攻・型に出願した者で、指定の科目数を超えて受験した場合の成績は次のとおりとする。

・基礎を付さない2科目及び基礎を付さない1科目を受験した場合は、基礎を付した2科目の成績と基礎を付さない1科目の成績のうち、いずれか高得点の成績を用いる。

【個別学力検査等】欄

〔注1〕「数学B」の出題範囲は「数列」「ベクトル」とする。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

大学入試センター試験における英語の配点にはリスニング（50点満点）の合計得点を200点満点に換算して利用する。

□で用いられている点数は、下記のとおり換算した点数である。

・後期日程の英語教育専攻では国語の点数を1.5倍、外国語の点数を2倍に換算する。

# 実技検査の概要

## 前期日程試験

【初等教育教員養成課程 芸術・体育系】

別表1

<p>音楽 コース</p>	<p>(1) 演奏試験 器楽（日本の楽器を含む）又は声楽により、演奏する能力をみる。演奏する曲目は任意とし、演奏時間は1人数分程度とする。時間の関係で、演奏を途中でとめることがある。 なお、ピアノ伴奏が必要な場合、伴奏者は本学で準備する。ピアノ以外の楽器を使用する場合には、受験者が持参する。 以下のものについては、出願時に提出する。</p> <p>① 演奏曲目届（書式任意）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽又は声楽の別</li> <li>・器楽を選択する場合は、使用楽器名</li> <li>・演奏曲目（作曲者名、曲名、作品番号、演奏する楽章等）</li> <li>・ピアノ以外を選択する者は、伴奏の必要の有無</li> </ul> <p>② 演奏楽譜（ピアノ伴奏が必要な場合は伴奏付きの楽譜）</p> <p>(2) 筆記試験 楽典に関する初歩的な知識をみる。試験時間は20分とする。</p> <p>(3) 弾き歌い 小学校歌唱教材程度の曲を、ピアノを弾きながら歌う能力をみる。 課題曲は、10月に発表される一般入試学生募集要項で発表する。</p>
<p>美術 コース</p>	<p>試験は四つ切り画用紙（380×540mm）に鉛筆を用いた静物デッサンを実施する。 表現力、構成力、物の捉え方等の基礎能力をみる。 試験時間は3時間とする。</p>
<p>体育・ 健康 コース</p>	<p>歩・走・跳・投の運動、器械・器具を使っての運動、用具を操作する運動などの基本的な運動から構成されたいくつかの課題について実技検査を行う。与えられた課題を把握する能力、他者やものの動きとの協応性、動きの巧みさとしなやかさ、リズム感や連続性、全身の協調性を総合的にみる。</p> <p>※実技検査は屋内で行う。</p>



音 楽 教 育 専 攻	<p>(1) 演奏試験 器楽（日本の楽器を含む）又は声楽により、演奏する能力をみる。演奏する曲目は任意とし、演奏時間は1人数分程度とする。時間の関係で、演奏を途中でとめることがある。 なお、ピアノ伴奏が必要な場合、伴奏者は本学で準備する。ピアノ以外の楽器を使用する場合には、受験者が持参する。 以下のものについては、出願時に提出する。</p> <p>① 演奏曲目届（書式任意）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽又は声楽の別</li> <li>・器楽を選択する場合は、使用楽器名</li> <li>・演奏曲目（作曲者名、曲名、作品番号、演奏する楽章等）</li> <li>・ピアノ以外を選択する者は、伴奏の必要の有無</li> </ul> <p>② 演奏楽譜（ピアノ伴奏が必要な場合は伴奏付きの楽譜）</p> <p>(2) 筆記試験 楽典と日本及び諸外国の音楽に関する基礎的な知識をみる。試験時間は40分とする。</p> <p>(3) 平易な聴音 単旋律を聴いて書き取る能力をみる。</p> <p>(4) 弾き歌い ピアノを弾きながら歌う能力をみる。 課題曲は、10月に発表される一般入試学生募集要項で発表する。</p>
美 術 教 育 専 攻	<p>試験は四つ切り画用紙（380×540mm）に鉛筆デッサンを実施する。 観察力、描写力、構成力等の基本的造形能力をみる。 試験時間は3時間とする。</p>
保 健 体 育 専 攻	<p>次の3群から1種目ずつ選択し、合計3種目について実技検査を行う。出願後の種目の変更は認めない。</p> <p>(1) 〔ダンス、器械運動〕から1種目選択</p> <p>① ダンス：与えられた動きの再現と即興表現とを通して、舞踊の基礎的な技能をみる。</p> <p>② 器械運動：マット運動・鉄棒運動・とび箱運動のうち1～2種目における基本的な技とその組み合わせの習熟度をみる。</p> <p>(2) 〔陸上競技、体操〕から1種目選択</p> <p>① 陸上競技：走・跳・投種目のうち1～3種目について、基礎的技能を中心に技術やルール等の理解もあわせてみる。</p> <p>② 体操：用具を使った運動における動きの巧みさとしなやかさ、リズム感、全身の協調性、他者や用具の動きとの協応性などをみる。</p> <p>(3) 〔バスケットボール、バレーボール、サッカー〕から1種目選択</p> <p>① バスケットボール：攻撃と防御の個人的基礎技能の習熟度及びゲームにおける基礎的プレイの実践力をみる。</p> <p>② バレーボール：個人的基礎技能の習熟度及びゲームにおける総合的な動きの実践力をみる。</p> <p>③ サッカー：個人的基礎技能（対人プレイも含む）の習熟度及びゲームにおける総合的な実践力をみる。</p> <p>※実技検査はいずれも屋内で行う。</p>

## 後期日程試験

【初等教育教員養成課程 芸術・体育系】

別表3

音 楽 コース	<p>(1) 演奏試験</p> <p>器楽（日本の楽器を含む）又は声楽により、演奏する能力をみる。演奏する曲目は任意とし、演奏時間は1人数分程度とする。時間の関係で、演奏を途中でとめることがある。</p> <p>なお、ピアノ伴奏が必要な場合、伴奏者は本学で準備する。ピアノ以外の楽器を使用する場合には、受験者が持参する。</p> <p>以下のものについては、出願時に提出する。</p> <p>① 演奏曲目届（書式任意）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽又は声楽の別</li> <li>・器楽を選択する場合は、使用楽器名</li> <li>・演奏曲目（作曲者名、曲名、作品番号、演奏する楽章等）</li> <li>・ピアノ以外を選択する者は、伴奏の必要の有無</li> </ul> <p>② 演奏楽譜（ピアノ伴奏が必要な場合は伴奏付きの楽譜）</p> <p>(2) 筆記試験</p> <p>楽典に関する初歩的な知識をみる。試験時間は20分とする。</p> <p>(3) 弾き歌い</p> <p>小学校歌唱教材程度の曲を、ピアノを弾きながら歌う能力をみる。</p> <p>課題曲は、10月に発表される一般入試学生募集要項で発表する。</p>
美 術 コース	<p>試験は四つ切り画用紙（380×540mm）に鉛筆を用いた静物デッサンを実施する。</p> <p>表現力、構成力、物の捉え方等の基礎能力をみる。</p> <p>試験時間は3時間とする。</p>
体 育・ 健 康 コース	<p>歩・走・跳・投の運動、器械・器具を使っての運動、用具を操作する運動などの基本的な運動から構成されたいくつかの課題について実技検査を行う。与えられた課題を把握する能力、他者やものの動きとの協応性、動きの巧みさとしなやかさ、リズム感や連続性、全身の協調性を総合的にみる。</p> <p>※実技検査は屋内で行う。</p>

## 5. 私費外国人留学生入試

- (1) 募集人員は、若干名とする。
- (2) 出願資格は、日本国籍を有しない者〔出入国管理及び難民認定法別表第1の4に定める在留資格「留学」を有する者及び取得できる見込みの者〕で、次の1)及び2)に該当するものとする。
- 1) 次の各号のいずれかに該当する者
- ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成29（2017）年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
  - ② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成29（2017）年3月31日までに18歳に達するもの
  - ③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥーア資格を有する者で、平成29（2017）年3月31日までに18歳に達するもの
  - ④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成29（2017）年3月31日までに18歳に達するもの
- 2) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する平成28年度第1回又は第2回日本留学試験の本学指定教科・科目を受験した者
- 大学入試センター試験の受験は、出願の要件としない。
- (3) 日本留学試験における受験系の別（文科系、理科系）に対応する本学の課程・専攻・コースは、次のとおりとする。

受験系	本学の課程・専攻・コース		
	初等教育教員養成課程	中等教育教員養成課程	特別支援教育教員養成課程
文科系	発達・教育系 幼児教育コース 子ども文化コース 教育学コース 教育心理学コース 言語・社会系 国語コース 社会コース 英語コミュニケーションコース 芸術・体育系 音楽コース 美術コース 体育・健康コース	国語教育専攻 社会科教育専攻 音楽教育専攻 美術教育専攻 保健体育専攻 英語教育専攻	視覚障害教育コース 聴覚・言語障害教育コース 発達障害教育コース 健康・運動障害教育コース
理科系	発達・教育系 教育学コース 教育心理学コース 理数・生活系 数学コース 理科コース 情報・ものづくりコース 家庭科コース 芸術・体育系 体育・健康コース	数学教育専攻 理科教育専攻 保健体育専攻 技術教育専攻 家庭科教育専攻	視覚障害教育コース 聴覚・言語障害教育コース 発達障害教育コース 健康・運動障害教育コース

(4) 入試方法

- ① 日本留学試験、本学が実施する日本語（文法・読解）の試験、面接試験及び実技検査の結果を総合して選考する。
- ② 日本留学試験で本学が課す教科・科目は、次の表に記載するとおりとする。  
なお、出題言語は、日本語とする。

受験系	教科・科目	備考
文科系	日本語	「記述」「読解」「聴解・聴読解」の3領域
	総合科目	
	数学（コース1）	
理科系	日本語	「記述」「読解」「聴解・聴読解」の3領域
	理科	「物理」「化学」「生物」から2科目選択
	数学（コース2）	

- ③ 面接試験の一部として、基礎的な学力検査を行うことがある。
- ④ 初等教育教員養成課程の芸術・体育系（音楽コース、美術コース、体育・健康コース）及び中等教育教員養成課程の音楽教育専攻、美術教育専攻、保健体育専攻に出願する者については、実技検査を行う。

(5) 実施日時等

期 日	時 間	試験内容	試験場	備 考
平成29年 2月4日（土）	9：00～10：30	日本語 （文法・読解）	本 学	辞書（電子辞書を含む）の 使用は認めない。
	13：00～	面接試験 実技検査		

6. 入学者選抜試験の情報開示

情報開示の方法については、それぞれの入試ごとに学生募集要項で公表する。

7. 学生募集要項の配付時期

学生募集要項の配付時期は次のとおりとする。なお、請求方法の詳細については18ページを参照のこと。

- (1) 推薦入試（東日本大震災被災者特別選抜を含む）は9月下旬から
- (2) 一般入試及び私費外国人留学生入試は10月下旬から

8. その他

- (1) 入学定員の一部をあらかじめ留保して行う第2次募集は行わない。
- (2) 入学者が入学定員に満たない場合には、「追加合格」又は「欠員補充第2次募集」を行う。
- (3) 受験上及び修学上特別な配慮を必要とする出願予定者は、本学の各種学生募集要項を参照すること。

## ○ 学生募集要項等の請求方法

### 1. テレメールで請求する場合

- ①インターネット（パソコン・スマートフォン・携帯電話）又は自動音声応答電話を利用して  
ください。



インターネット(パソコン・スマートフォン・携帯電話等)の場合	自動音声応答電話の場合
<a href="http://telemail.jp">http://telemail.jp</a> パソコン及びスマートフォン・携帯電話各社共通アドレスです。	IP 電話 050-8601-0101 (24時間受付)
右のバーコードからアクセスした 場合は資料請求番号は不要。	



※ IP 電話：一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。

- ②資料請求番号（6桁）をプッシュ又は入力してください。

資 料 名	資料請求番号	料 金 (送料含む)	備 考
一般入試学生募集要項＋大学案内	540802	300円	発送開始時期は10月下旬
推薦入試学生募集要項＋大学案内	540812	300円	発送開始時期は10月上旬
私費外国人留学生入試 学生募集要項＋大学案内	540822	215円	発送開始時期は10月下旬

- ③あとはガイダンスに従って登録してください。

※請求から2～3日後に資料が届きます。ただし、受付時間や地域、配達事情によっては4日以上かかる場合もあります。なお、発送開始日までの請求は予約受付となり、発送開始日になりましたら一斉に発送します。

※資料請求終了時および受付確認メール内で告知される10桁の「受付番号」は資料到着まで保管しておいてください。

※料金のお支払いは資料到着後の後払いです。送付される資料に同封されている料金支払い用紙の支払方法に従いお支払いください。

※自動音声応答電話による請求の場合、住所、氏名の登録時は、ゆっくりはっきりとお話してください。

登録された音声の不鮮明な場合、資料をお届けできないことがあります。

### 2. 大学のホームページから請求する場合

大学のホームページから直接テレメールによる資料請求ができます。

詳しくは、宮城教育大学のホームページ(<http://www.miyakyo-u.ac.jp>)の資料請求をご覧ください。

\*上記1. 2. の請求方法についてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (9:30～18:00)

### 3. 宅配便利用の場合

高等学校等で取りまとめて請求する場合は必要部数を明記し、着払いの宅配ラベル(送付先明記)を同封のうえ請求してください。

### 4. 郵送を希望する場合

入試課入試係あての封筒の表に、必要とする募集要項の種類を朱書きのうえ、郵送してください。その際、角形2号の返信用封筒に返送先の郵便番号・住所・氏名を明記し、一般入試学生募集要項・推薦入試学生募集要項については切手400円分、私費外国人留学生入試学生募集要項については切手250円分をはって同封してください。

### 5. 直接来学する場合

本学正門受付もしくは入試課入試係(下記住所)で受け取ってください。配達時間は、入試課入試係で受け取る場合は午前8時30分から午後5時までです。

また、本学正門受付では24時間、平日・土・日・祝日を問わず受け取ることができます。

## ○ 宮城教育大学オープンキャンパス

本学の入試制度や教育内容等を直接受験生等に説明する目的で、「宮城教育大学オープンキャンパス」を平成28年8月4日(木)に本学で開催します。詳細については、本学ホームページ・携帯サイト(下記参照)で公表します。自由に参加できます。ただし、高校単位で貸切バスを利用して参加される場合は、事前に次の照会先までご連絡ください。

## ○ 照 会 先

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 宮城教育大学 入試課入試係 (TEL(022)214-3334)

## ○ 入学試験に関するインターネットによる情報提供

<http://www.miyakyo-u.ac.jp> (宮城教育大学のホームページ参照)

<http://daigakujc.jp/prc.miyakyo-u/> (宮城教育大学の携帯サイト参照)





## ○ 宮城教育大学までのアクセス

〈地下鉄 東西線〉

「仙台」駅から「八木山動物公園」行き乗車、「青葉山」駅下車  
(乗車時間9分、料金250円)

「青葉山」駅「北1出口」から徒歩約7分

※「青葉山」駅の「北1出口」から外に出て、歩道を右方向へ進みます。  
そのまま歩道を歩いて行くと宮城教育大学に到着します(約650m)。

【本学ホームページ「交通アクセス」 <http://www.miyakyo-u.ac.jp/>】

